

# 令和5年産 中生水稲(ヒノヒカリ) 栽培しおり

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。→

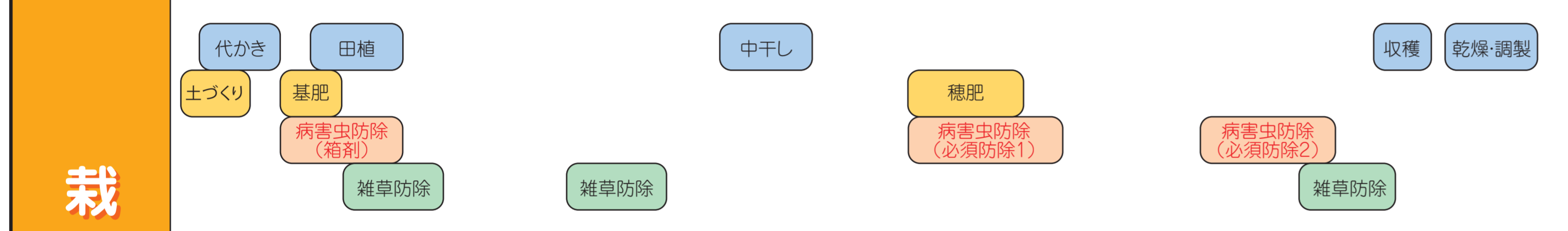
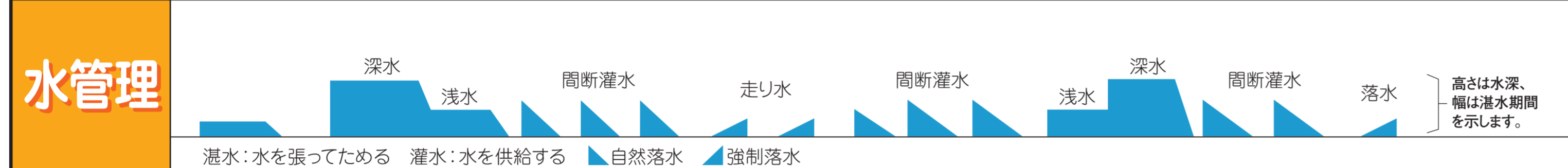
発行:JA香川県大川地区営農センター  
監修:東讃農業改良普及センター

土づくりのため、堆きゅう肥等の積極的な施用に努めましょう。また、稲わらや麦わらは焼かずにはすき込みましょう。

栽培履歴を必ず記載し、出荷開始15日前までに提出しましょう。毎年種子更新100%に取り組ましましょう。

| 作業<br>品種        | 作業    |                    | 中干し期間      | 穂肥施用<br>(出穂18日前) | 出穂期<br>(ほ場全体の<br>4~5割が出穂) | 収穫期           |
|-----------------|-------|--------------------|------------|------------------|---------------------------|---------------|
|                 | 田植日   | 間断灌水開始<br>(田植後15日) |            |                  |                           |               |
| ヒノヒカリ<br>クレナイモチ | 6月15日 | 6月30日              | 7月15日~8月2日 | 8月9日             | 8月27日                     | 10月6日~10月11日  |
|                 | 6月20日 | 7月5日               | 7月20日~8月4日 | 8月11日            | 8月29日                     | 10月8日~10月13日  |
|                 | 6月25日 | 7月10日              | 7月25日~8月6日 | 8月13日            | 8月31日                     | 10月10日~10月15日 |

※中干しは、田面にできるヒビ割れが1cm程度までとします。強い中干しは、根を痛める原因となります。



栽培管理の注意事項:

- 中干しは田面が黒乾きで、ヒビ割れが1cm程度までとします。
- 穂肥の施用時期は出穂18日前。
- 10日前までに、畦畔などの草刈りは出穂前までに完了させる。
- 出穂後、カメムシ類の防除を行う。
- 刈取り後は2時間以内に乾燥に移す。
- 刈取り後は2時間以内に乾燥に移す。
- 水分:25%前後
- 水分:90%が黄変したら刈り取る。



| 肥料名  | 窒素-リン酸-加里 N-P-K(%) | 総量       | 基肥     | 穂肥I (出穂18日前) | 穂肥II (出穂10日前) | 備考       |
|------|--------------------|----------|--------|--------------|---------------|----------|
| いずれか | スーパー固形400J         | 14-10-10 | 55(45) | 55(45)       | -             | ワンショット肥料 |
|      | スーパープレントLP40       | 14-14-14 | 60     | 35           | 25            | ツーショット肥料 |
|      | 高度化成402            | 14-10-12 | 65(60) | 35(30)       | 20            | 速効性肥料    |

| 肥料名       | 総量  | 基肥  | 出穂35日前頃 |
|-----------|-----|-----|---------|
| 粒状くろがねシリカ | 100 | 100 | -       |
| けい酸加里     | 40  | 40  | -       |
| 苦土一番      | 40  | 40  | -       |

| 肥料名  | 窒素-リン酸-加里 N-P-K(%) | 総量       | 基肥   | 穂肥 (出穂18日前) |
|------|--------------------|----------|------|-------------|
| いずれか | 牛ふん堆肥              | -        | 1000 | -           |
|      | コーン堆肥              | -        | 4000 | -           |
|      | スーパープレントLP40       | 14-14-14 | 50   | 20          |

注( )は、側条施肥の場合

＜留意事項＞

- 堆肥を施用し土づくりに努める。
- 中山間地帯及び地力の高いほ場では減肥する。
- 牛ふん堆肥は水稲作付けの前年秋に施用することが望ましいが、遅くとも田植30日前までに施用し、すき込み。堆肥1,000kg当たり基肥で窒素1kg、穂肥で窒素1kg分を減らす。
- 麦わらをすき込む場合は、わらの腐敗に伴うワキ現象のため、間断灌水をするなど水管理に注意する。
- コーン堆肥を使用する場合は、作付けの前年秋を目安に施用し、遅くとも12月までに施用する。
- 堆肥やコーン堆肥を連年使用すると地力が向上するので肥料の施肥量を減らす。
- 被覆肥料のマイクロプラスチックの流出には十分に気をつけること。



## 病害虫防除基準

| 防除時期   | 対象病害虫名                                 | 使用薬剤及び10a当たり散布量   | 注意事項   |
|--|--|---|--|
| 移植3日前~移植当日   | いもち病、紋枯病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、イネミズゾウムシ | スクラム箱粒剤 1箱当たり50g散布  | ●育苗箱の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、十分に灌水してから移植すること。  |
| 必須防除1<br>いずれか<br>出穂20~15日前 (収穫45日前まで/1回)<br>出穂直前 (収穫14日前まで/2回以内)     | 穂いもち、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類                    | ゴウケツモンスター粒剤 3kg<br>ノンプラスパリダントツプロアブル 1,000倍(100mL/100L)      | ●灌水状態(水深5cm程度)で散布する。<br>●散布後少なくとも4~5日間は灌水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしないこと。<br>●使用前によく振ってから使用する。<br>●使用量にあわせ薬液を調整し、使いきる。     |
| 必須防除2<br>いずれか<br>出穂7~10日後 (収穫7日前まで/3回以内)<br>出穂10~14日後 (収穫7日前まで/3回以内) | カメムシ類、ウンカ類                             | スタークル豆つぶ 250g<br>スタークル粒剤 3kg<br>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g/100L) | ●灌水状態(3~5cm程度)で散布し、4~5日間は灌水状態を保ち、散布後7日間は落水及びかけ流しをしない。<br>●灌水状態(3cm程度)で田面に均一に散布し、4~5日間は灌水状態を保つ。<br>●使用量にあわせ薬液を調整し、使いきる。 |

| 対象病害虫名                       | 防除時期      | 使用薬剤及び10a当たり散布量(使用可能時期/回数)                                      |
|------------------------------|-----------|---|
| スクミリンゴガイ                     | 田植直後      | スクミノン(粒剤) 1~4kg(収穫60日前まで/2回以内)                                  |
| いもち病、もみ枯細菌病                  | 発生初期      | ブラシフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで/2回以内)<br>※ノンプラスパリダントツプロアブルを使用する場合は1回まで。 |
| 稲こやし病                        | 出穂10~20日前 | ※ノンプラスパリダントツプロアブルを使用する場合は1回まで。                                  |
| 紋枯病                          | 発生初期      | パリダシ液剤5 1,000倍(収穫14日前まで/5回以内)                                   |
| ウンカ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ | 発生初期      | パダントレボン粒剤L3kg(収穫30日前まで/3回以内)                                    |

## 雑草防除基準

| 散布時期  | 除草剤名<br>10a当たり処理量             | 注意事項   |
|---|-------------------------------|--|
| 初期除草剤(いずれか)<br>田植直後~9日<br>ノビエ2.5葉期まで<br>(田植後30日まで/1回) | カチボンLジャンボ 小包装(パック)10個(300g)   | ●水深5~6cmで散布する。<br>●散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。<br>●ウキクサや藻類の発生が多い場合には、モゲン等で処理した後に使用する。                               |
|   | カチボンLフロアブル 500ml              | ●灌水状態で散布し、3~4日間は水深3~5cmを保つ。<br>●藻類や浮草が多発生や、散布時に田面に露出している場合は、拡散が劣り、除草効果の低下や薬害が発生するに注意する。                      |
|   | ナギナタ豆つぶ250 250g               | ●散布直前から3日間は水深5~6cmを保つ。<br>●ウキクサや藻類の発生が多い場合には、モゲン等で処理した後に使用する。  |
| 田植後~ノビエ3葉期まで<br>(収穫60日前まで/1回)                         | エンパー1キロ粒剤 1kg                 | ●灌水状態で散布し、散布直前から3~4日間は水深3~5cmを保つ。  |
| 中期除草剤<br>田植後20~30日<br>(収穫60日前まで/1回)                   | バサグラン粒剤 4kg                   | ●初期除草剤散布後、広葉雑草が残った場合に使用する。<br>●散布直前から3~5日間は落水状態を保つ。<br>●イネ科雑草には効果がない。  |
|   | クリンチャージャンボ 小包装(パック)30個(1.5kg) | ●初期除草剤散布後、ヒエが残った場合に使用する。<br>●散布後3~4日間は水深3~5cmの灌水状態を保つ。   |
|   | クリンチャーバスマE液剤 1,000ml、水70~100L | ●初期除草剤散布後、ヒエ、広葉雑草が残った場合に使用する。<br>●散布直前から3~5日間は落水状態を保つ。<br>●雑草の茎葉や株元によく付着するよう散布する。<br>●履着剤は使用しない。             |
|   | ワイドパワー粒剤 3kg                  | ●初期除草剤散布後、ヒエ、広葉雑草が残った場合に使用する。<br>●極浅水状態の水深1~2cmで散布する。<br>●散布後2日間は人落水をしない。散布後3~7日間は適宜入水を行い、水深2~5cmを保ち、落水はしない。 |
| 田植後20日~ノビエ4葉期まで<br>(収穫60日前まで/1回)                      | ツイゲキ1キロ粒剤 1kg                 | ●水稲5葉期以降に散布する。<br>●灌水状態で散布。3~4日間は水深3~5cmを保ち、落水をしない。<br>●散布後多量の降雨が予測される場合は、効果が劣るため使用を避ける。                     |

周辺環境のため農薬を散布した場合は1週間は落水しないようにする。 農薬散布の際は、近接ほ場の栽培作物に農薬が飛散しないよう細心の注意を払います。